

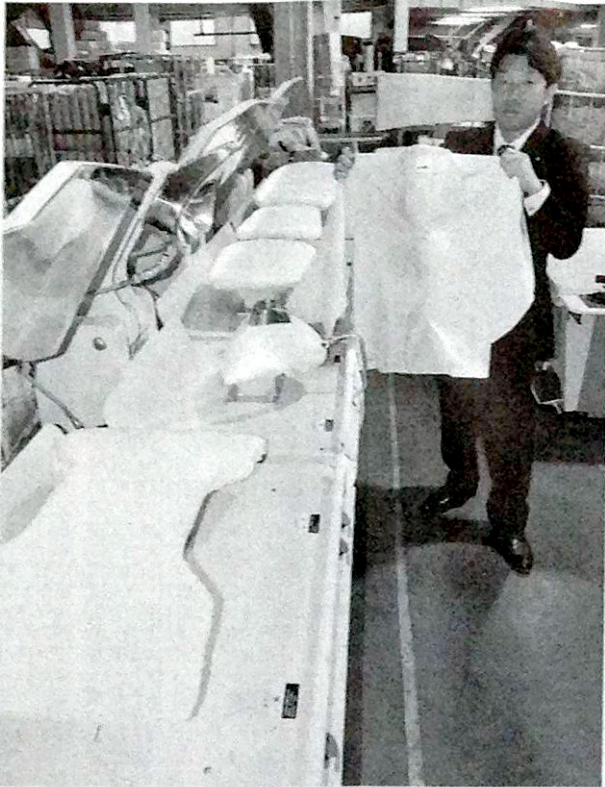
さくら・おしぼりの三協

調理衣レンタルに参入

個人飲食店向け、県内初

レンタルおしぼりの三協(さくら市氏家、添田敏夫社長)は今月から、飲食店向けのコック服や白衣などのユニホームレンタルを始めた。個人営業のレストランや居酒屋など飲食店を対象にし、ホテルや病院など大口を扱うリネンサプライ業者との差別化を図る。一般的な飲食店を対象としたレンタルサービスは県内で初めてという。理美容店など他業種にも広げ、5年後には売上高の10%、1億円の取り扱いを目指す。

(伊藤一之)



ユニホームレンタルのアイロンラインと、クリーニングされた調理衣を持つ添田取締役。20日午前、さくら市内

レンタル品目はコック服、調理衣、調理用エプロン、帽子、テーブルクロスなど30点近くを用意。週2回、回収と貸与を行い、一般的なクリーニング店でのクリーニング代の約半額で貸し出す。当面は本社があるさくら市周辺からサービスを始め、半年をめどに全県に広げる。

一般的な飲食店は調理衣などを自宅で洗濯するのがほとんど。白衣の汚れが十

分落ちなかったり、飼っているペットの毛が付くなどの課題があることが分かった。

昨年、本社工場に別棟を建設し、ラインを見直した。40年以上のおしぼり洗浄のクリーニング技術を生かし、ユニホームの洗濯機、プレス機、エプロンやテーブルクロスにアイロンを掛ける専用機を導入し、ラインを整えた。

同社はレンタルおしぼりで県内外4500店と取引し、県内ではシェアが70%以上あるが、安価な紙おしぼりに押され、市場は縮小傾向にある。添田取締役は「理美容店とタオルレンタルの取引も行っており、ユニホームレンタルを理美容、スーパーの総菜部門や食品製造などにも広げていきたい」と話す。